

採用案内
2018

CABINET INTELLIGENCE
and
RESEARCH OFFICE



内閣官房

内閣情報調査室

内閣情報調査室を志望する皆さんへ



内閣情報官
北村 滋
Shigeru Kitamura

内閣情報官は、内閣法に基づき、「内閣の重要政策に関する情報の収集調査に関する事務」を掌理することとされており、我が国政府の最高意思決定権者である内閣総理大臣を始めとする官邸首脳及び政策部門に対して、その道のプロたちが収集・分析したインテリジェンスを適時に報告するとともに、そのために必要となるインテリジェンス機能の強化を推進し、内閣を直接支える任務を担っている。

我が国の安全保障をめぐる環境は一段と厳しさを増している。北朝鮮による核・ミサイル開発、東シナ海における中国公船の領海侵入、海外邦人の安全を脅かす国際テロ、サイバー空間における情報窃取活動…。これらは世界各地の事象と相互に連動しており、一点のみを見ては正確な姿を捉まえることができない。

そのような厳しい環境に対応するため、近年、我が国の安全保障体制の強化が進められており、インテリジェンス機能の強化はその中の極めて重要な柱となっている。

まず、国家安全保障会議(NSC)が発足し、安全保障法制が整備されたことにより、政策部門の必要とする情報を提供するインテリジェンス部門の重要性が一層明確になった。次に、安全保障上の重要機密情報を適正に管理するための「器」とも言える特定秘密保護法が施行されたことにより、インテリジェンス機関が国内外の機関との連携を深化さ

せることが可能となった。そして、一昨年には、官邸直轄の情報収集部隊である国際テロ情報収集ユニットが発足し、我が国が海外においてfirst handの人的情報収集を進めていく上で大きな一歩となった。さらに、本年夏には、関係11省庁の職員が一堂に勤務してテロ容疑事案等の分析を行う「国際テロ対策等情報共有センター」がスタートする。

また、平成13年に設置された内閣衛星情報センターにおいて運用する情報収集衛星は、我が国の重要な情報収集手段に成長しており、今後、10機体制の整備等に向けた各種検討に取り組む必要がある。さらに、サイバー空間における脅威の増大に対処するため、我が国としても、カウンター・サイバーインテリジェンス能力を省庁横断的に高めていかなければならない。

現在、内閣情報官として、多忙を極める総理日程の中、概ね週2回の定例報告のほか、必要な場合には臨時の報告を行っている。そのため、当室のスタッフと力をあわせ、常にアンテナを高くし、速やかに情報を収集するとともに、必要な情報が集約されているか、情報の分析は的確か、報告の直前まで日々苦悩しながら準備に注力している。

この仕事は、決して目立つものではない。だが、総理を直接支え、陰ながら我が国の安全の確保に貢献する誇りと使命感を得ることができる職務である。複雑化する脅威を前に、柔軟かつ的確な情報収集・分析を行うためには、画一的ではない多様な知識・経験を持った集団となることが求められている。新たな諸課題にチャレンジする進取の気概を持つ諸君が内閣情報調査室の一員に加わることを願ってやまない。



CONTENTS

内閣情報調査室を志望する皆さんへ	1	内閣衛星情報センター～情報収集衛星の開発・運用～	9	若手職員の働き方	17
内閣の総合戦略機能を担う「内閣官房」	3	内閣情報調査室の歴史と発展	10	職員のキャリアステップと出向・研修制度	19
内閣を「情報」で支える内閣情報調査室	4	職員の声	11	待遇・制度、採用について	21
インテリジェンスの創造	5	職員の座談会	13	平成30年度採用スケジュール	22
総理の目と耳としての役割～収集から報告まで～	6	職員の日	15		



内閣の総合戦略機能を担う「内閣官房」

内閣(内閣総理大臣と国務大臣で組織)に置かれる「内閣官房」は内閣の補助機関であるとともに、内閣の首長たる内閣総理大臣を直接に補佐・支援する機関であり、内閣の「総合戦略機能」を担っています(内閣法第12条)。

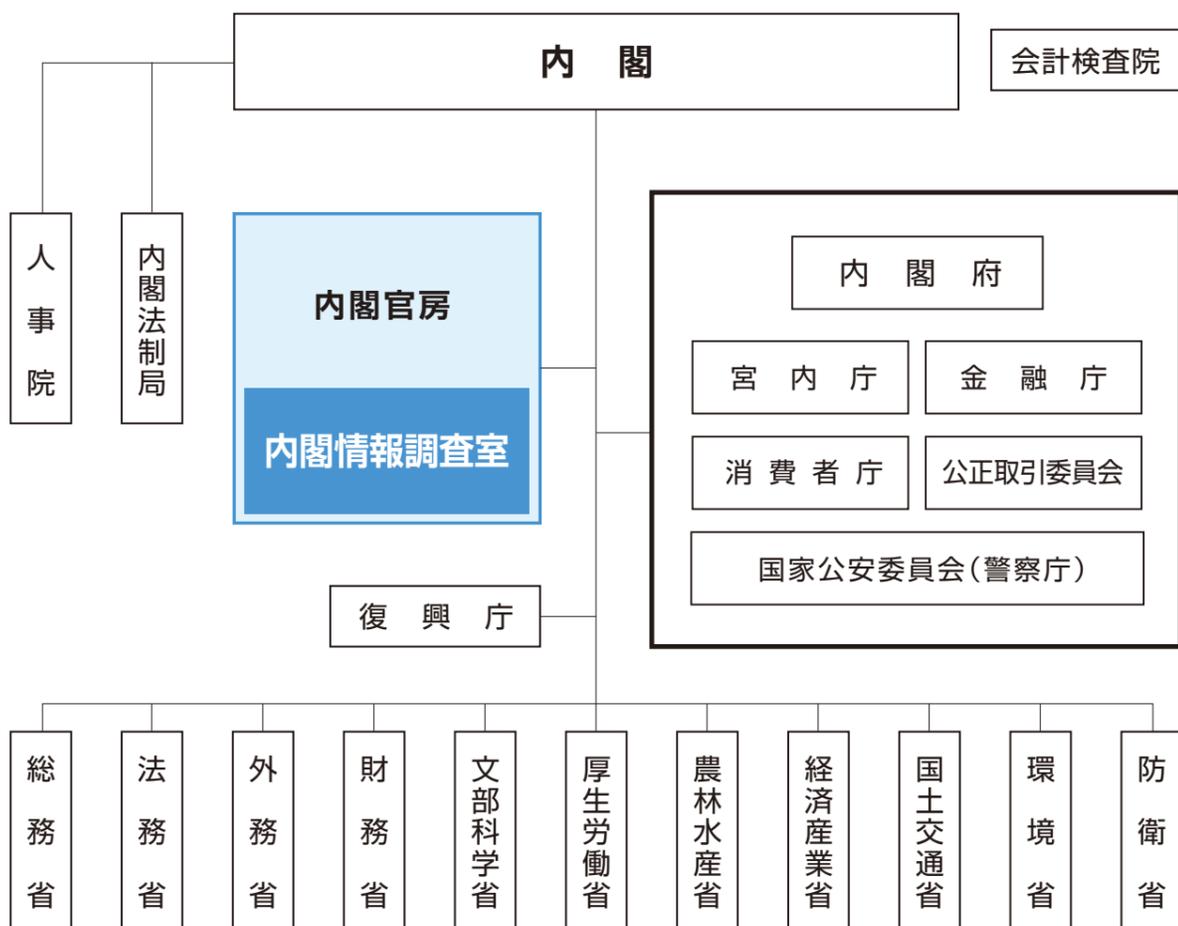


閣議(内閣広報室提供)



官邸での会議(内閣広報室提供)

中央省庁機構図

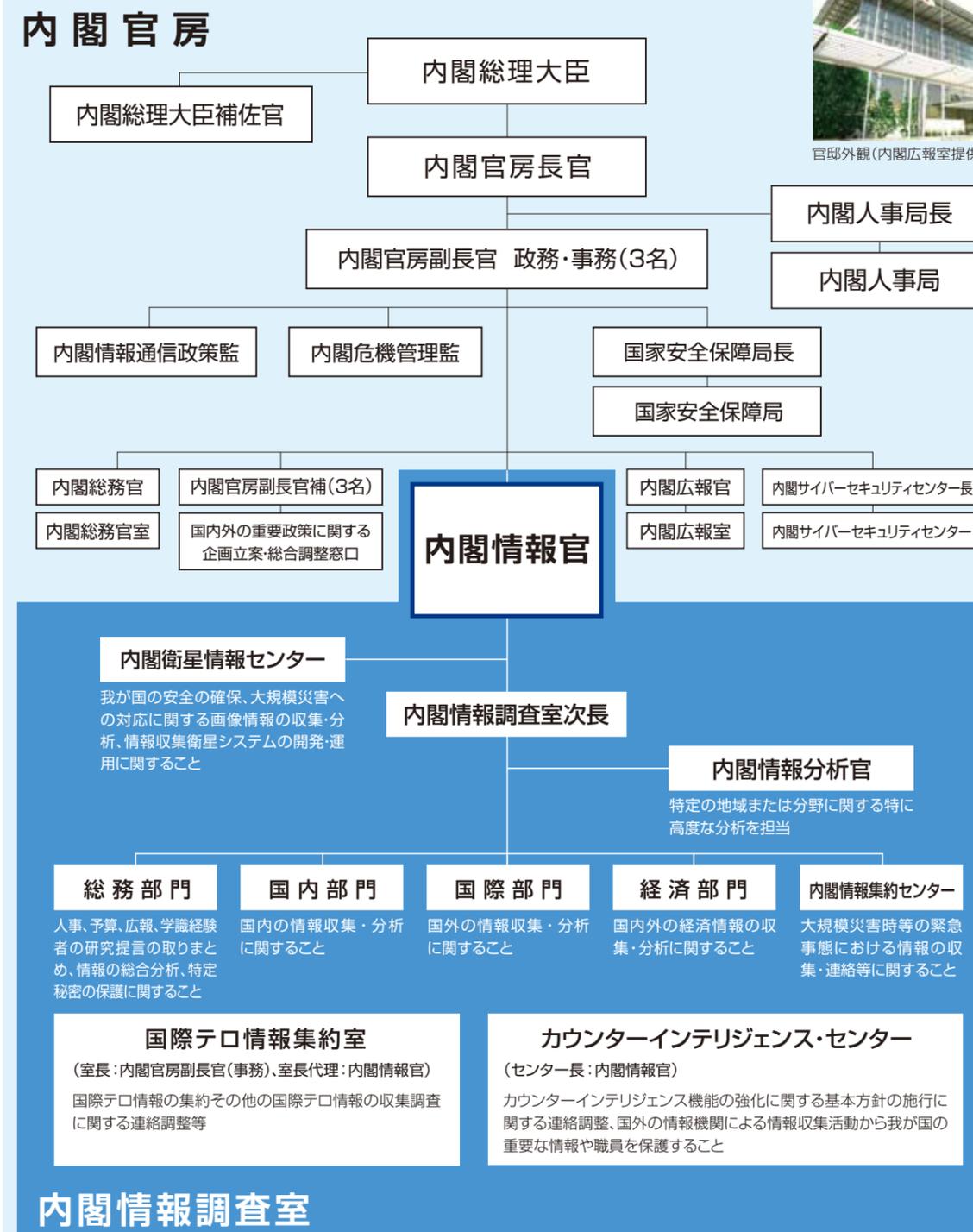


内閣を「情報」で支える内閣情報調査室

内閣官房の職務のうち、内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務は、「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」と定められています(内閣官房組織令第4条)。



官邸外観(内閣広報室提供)

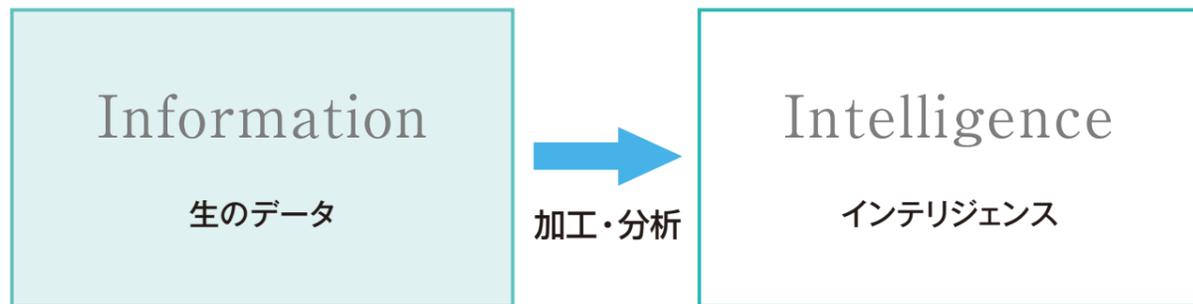




インテリジェンスの創造

内閣情報調査室の職員は、私たちを取り巻く様々な社会情勢、直面する重要課題に関して、経緯の調査、現況の把握、今後の動向の分析を客観的、中立的、多角的な観点から行い、タイムリーで質の高いプロダクトとしての「情報(インテリジェンス)」を紡ぎ出す作業をしています。

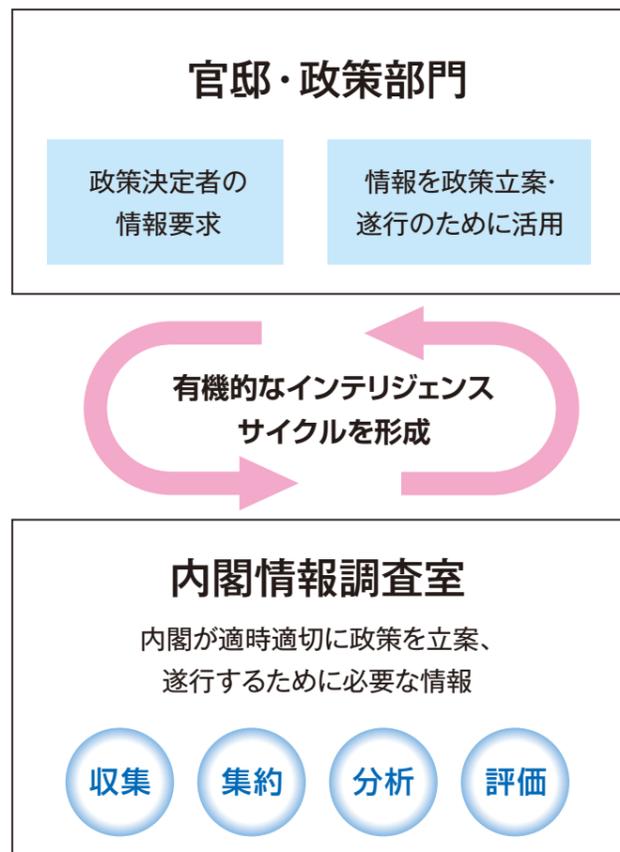
「情報」の概念



内閣情報調査室が収集・分析する「情報(インテリジェンス)」の意味合い

時の政策決定者が国家の進むべき方向性を決定する際に、正確かつ客観的な情報が不可欠であることは、過去の歴史が証明しているところです。昨今の国内外情勢は一段と複雑かつ難解なものとなっており、このような状況に対して、国家が機敏に、そして柔軟に対応するため、内閣情報調査室が収集、分析した「情報(インテリジェンス)」は内閣情報官を通じて、総理をはじめとする、官邸幹部や国家安全保障会議(NSC)等の「政策部門」へ提供されています。このような「情報(インテリジェンス)」の提供により、国の政策決定を支援する内閣情報調査室は、いわば国家という大きな船が航海する上で不可欠な海図と言えます。

また、国家安全保障会議(NSC)や国家安全保障局(NSS)が機動的に活動している今、内閣情報調査室による総合的な分析(オール・ソース・アナリシス)の成果がより求められるようになっており、官邸直属の情報機関である内閣情報調査室の担う役割はますます重要性を増しています。



総理の目と耳としての役割 ~収集から報告まで~

内閣情報調査室が生み出す「情報(インテリジェンス)」は定期的に官邸に報告されており、総理の「目」や「耳」としての役割を担っています。



情報の収集・集約・分析・評価

他の省庁がそれぞれ所掌する分野についての情報収集、分析を行うのに対して、内閣情報調査室は、「内閣の重要政策に関する情報」つまり、特定の事項に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集、分析を行っています。

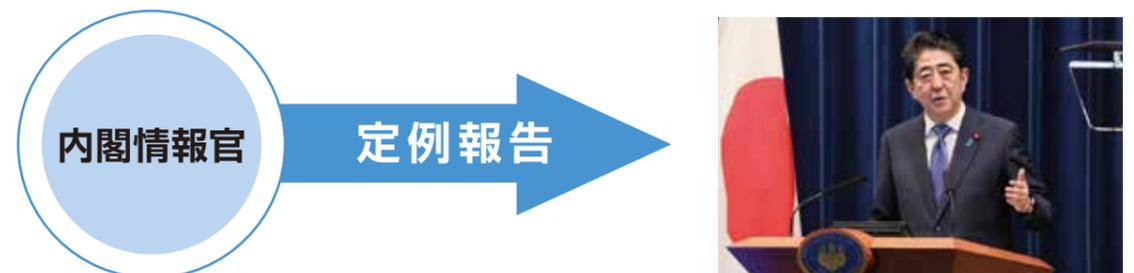
具体的には、内外の情勢に詳しい各界の専門家と直接会い、国内外の最新情勢の収集・意見交換を行うといった、フットワークを生かした「外回り」の他、新聞や雑誌、専門誌、通信社のニュース、テレビ、インターネット等の様々なメディアから膨大な公開情報を整理し的確な分析を加えていく業務、情報収集衛星で撮影した「画像」の分析業務等を行っています。内閣情報調査室の職員は、時に「新聞記者」のように官邸を「読者」として意識しながら情報収集を行い、時に「学者・研究者」のように中長期的な視点に立って詳細な分析、研究を行います。



定例報告

内閣情報調査室職員による国内外の諸状況に関する情報の収集、集約、分析、評価によって得られた「情報(インテリジェンス)」は、内閣情報官を通じて、毎週定期的に内閣総理大臣、内閣官房長官等に報告されます。特に重要な情報、緊急を要する情報については随時報告を行っています。

また、内閣情報官が国家安全保障会議(NSC)に出席して、報告を行うなど、政策部門への情報提供も行っています。



情報コミュニティ省庁との連絡調整

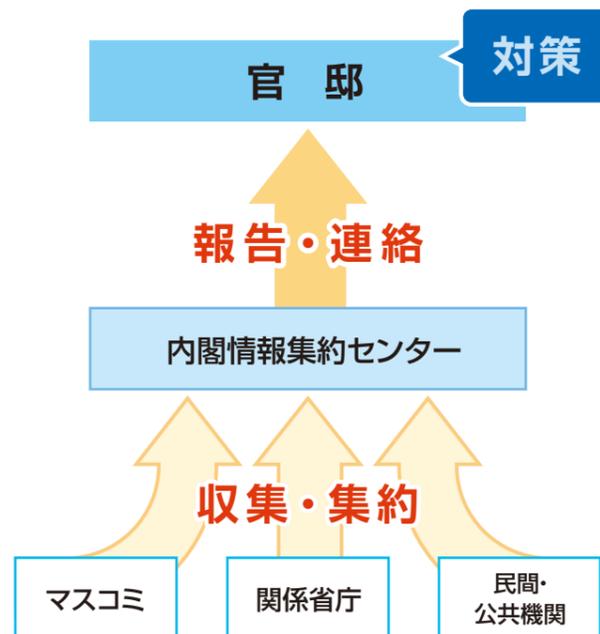
内閣情報調査室は、閣議決定に基づき設置された内閣情報会議、合同情報会議、情報収集衛星推進委員会及び情報収集衛星運営委員会を開催する他、内閣総理大臣、内閣官房長官、内閣官房副長官等の官邸の政策担当者と、情報コミュニティ省庁との連絡調整を担い、情報コミュニティの「要」(取りまとめ)としての役割を果たしています。



この他にも、国際テロ情報収集・集約幹事会等、内閣情報調査室が中心となって情報コミュニティ内の様々なレベルで随時連絡会議を開催し、いわば「オールジャパン」で内閣としての政策判断を支援する体制が構築されています。また、内閣情報調査室は、特定秘密の保護に関する企画立案・総合調整業務も行っています。

※「情報コミュニティ」は従来は内閣情報調査室、警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省の5省庁で構成されていましたが、平成20年3月の閣議決定により拡大されました。

緊急事態の初動対処



内閣情報調査室の内閣情報集約センターでは、国内外の重要かつ緊急な情報を24時間体制で収集・集約しています。大規模災害や我が国の安全が脅かされる事案等、緊急事態が発生、あるいはそのおそれのある情報が得られた際には、内調に緊急情報が集約され、内調から官邸幹部に速報します。

各省庁との専用回線、内外の通信社との専用回線等のほか、災害発生時には、防衛省、警察庁等のヘリコプターからの映像をリアルタイムで受信するシステム等があり、緊急事態発生時における政府の情報収集、集約の拠点として重要な役割を果たしています。内閣に対策本部が設置された場合には、内閣情報官が関係の会議に出席し、情報面から内閣を支えます。

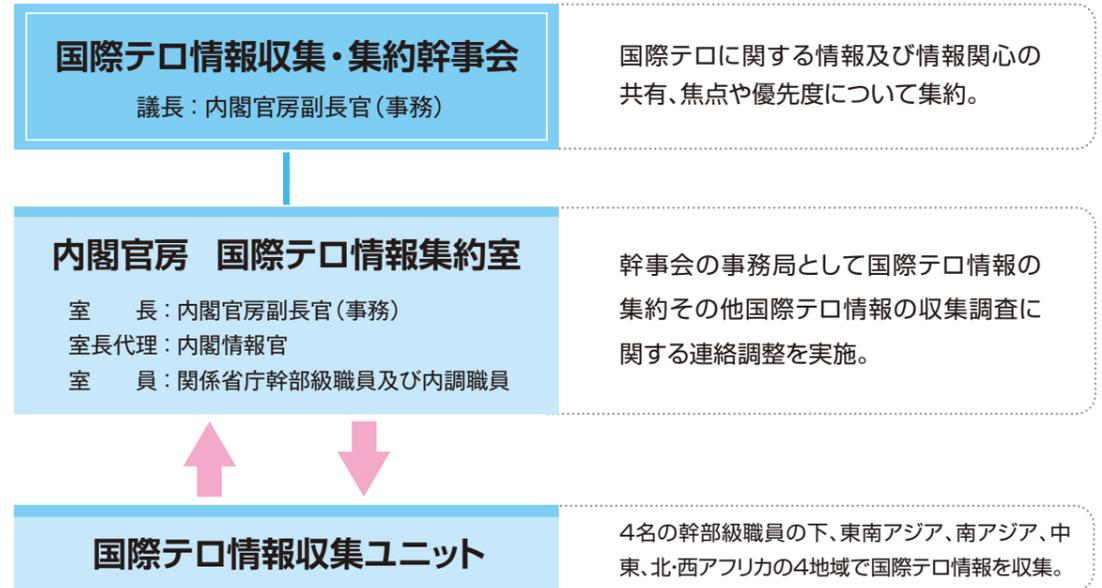
国際テロ情報の収集・集約

邦人関連事案に関する国際テロ情報の収集等を抜本的に強化するため、平成27年12月、「国際テロ情報収集・集約幹事会」、「国際テロ情報集約室」、「国際テロ情報収集ユニット」が新設されました。このうち、「国際テロ情報集約室」は、内閣官房副長官(事務)を室長、内閣情報官を室長代理とするほか、内閣情報調査室の職員により構成されています。

「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行っており、これに基づいて、「国際テロ情報収集ユニット」は、いわば官邸の直轄部隊として、情報収集を行っています。



台湾におけるテロ対策合同訓練



コラム

●平成11年採用 男性 総務部門や国際部門を担当し、現在内閣府に出向中の中堅職員。

振り返ると早いもので採用されてから20年ほど経ちました。これまで、国会対応、メディア論調分析、情報保全、国際テロ情勢など幅広い業務に携わることができました。広範な業務の共通項となるのは、政策決定者の要求に応えるため、様々な情報を収集・分析し、インテリジェンスを提供しているということです。長年インテリジェンスを扱っていると、その取扱いや管理の重要性にも自然と目が向きます。

インテリジェンスの定義は論者により多様ですが、その管理の仕方は体系的と言えるかもしれません。知識としてのインテリジェンスは言語化することができ、文書化されます。文書化したインテリジェンスはその取扱い・管理の過程で「公文書等の管理に関する法律」や各種の秘密取扱規則等、政府共通のルールを適用を受けます。インテリジェンスという言葉に対して、文書管理を持ち出すのはやや意外な感じがするかもしれませんが、例えばインテリジェンス界の慣習法(たいていは相手国との間で取決めがありますが。)とも

言うべきいわゆる「サード・パーティ・ルール」などの言葉を耳にしたことがある方もいるかもしれません。このようなルールを守ることにより、インテリジェンスの受け手でもあり作り手でもある我々は、諸外国とインテリジェンスの交換が可能になり、国益に資する活動ができます。

インテリジェンスは他のインテリジェンスと関連付けて新たな意味を重ねていくオープンエンドの過程です。常に意味が変化するものに対して、理想的で整合性のあるルールを適用する際には緊張感がありますが、同時にやりがいも生まれます。

毎年、多くの方に当室の説明会においていただき、インテリジェンスへの関心が広がってきたと感じています。内調はダイナミックな国際情勢のプロセスの中に身を置くことができ、領域を横断するような経験が積める知的刺激に満ちた職場であり、同時にその取扱いや管理にも習熟できる職場です。一人でも多くの方に業務説明会にお越しいただければと思います。



内閣衛星情報センター ～情報収集衛星の開発・運用～

内閣衛星情報センターは、外交・防衛等の安全保障や大規模災害への対応等の危機管理のために必要な画像情報の収集を行うため、情報収集衛星の開発・運用を行っています。

情報収集衛星によって得られた画像情報は、内閣総理大臣・内閣官房長官への報告や、情報コミュニケーションへの報告書の作成・配布等、政府の重要政策の決定や情勢判断に際し、活用されています。

情報収集衛星 (Information Gathering Satellite) について

● 光学衛星とレーダ衛星を運用

● 4機体制から10機体制の確立を目指して

(情報収集衛星画像の活用例)

我が国の安全保障や重要政策の決定に資する他、右のような活用もされています。



平成25年、フィリピン台風被災状況推定地図(タクロバン周辺)を作成し、公表しました。



平成27年、台風第18号による大雨等に係る茨城県常総市の被災状況について、公表しました。

最先端衛星の研究・開発の推進

研究・開発

- 課題例
- ① 衛星が撮像対象の上空を通過するのは瞬間的
 - ② 1シーンで撮れる範囲は限定的
 - ③ 情報を要求してからデータを得るまでに時間を要する

研究開発の主な取組

- ① 情報の量の増加
- ② 情報の質の向上
- ③ 即時性の向上

運用

- 1 計画の立案**
要求に基づき作成した撮像計画に従って、衛星の最適な管制計画を立案し、コマンドを作成
- 2 衛星との通信**
衛星管制のためのコマンド送信、撮像データの受信を行います。
- 3 画像の処理**
受信した撮像データを処理します。
- 4 画像の判読・分析**
専門的訓練を受けた分析官が、処理された画像の判読・分析を行います。
- 5 報告書の作成**
判読・分析した結果は、報告書としてまとめます。
- 6 報告書の配付**
撮像要求に応じて、報告書を利用省庁に配付します。



判読・分析

衛星画像を基にした高度な情報分析を行ないます。



内閣情報調査室の歴史と発展



戦後、我が国が再び国際社会の荒波に耐えうるよう、内閣情報調査室は、旧総理大臣官邸の小さな一室で産声をあげました。設立以降、内閣情報調査室は時代のニーズに合わせて、着実に発展の道を歩み、年々組織の重要性が高まっています。

昭和27年 4月9日 第3次吉田内閣	内閣総理大臣官房調査室 (総理府の組織として新設)	1952
昭和32年 8月1日 第1次岸内閣	内閣調査室 (組織変更により内閣官房に)	1957
昭和61年 7月1日 第2次中曽根内閣	合同情報会議を設置 内閣情報調査室 (内閣官房の組織再編により名称が変更)	1986
平成8年 5月11日 第1次橋本内閣	内閣情報集約センターを設置 (緊急な重要情報を24時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告する)	1996
平成10年 10月27日 12月22日 小渕内閣	内閣情報会議を設置 情報収集衛星の導入について閣議決定	1998
平成13年 1月6日 第2次森内閣	内閣情報官を設置 (中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ)	2001
平成13年 4月1日 第2次森内閣	内閣衛星情報センターを設置 (情報収集衛星の開発・運用、画像情報の収集・分析)	2001
平成20年 4月1日 福田内閣	カウンターインテリジェンス・センターを設置 (外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護) 内閣情報分析官を設置 (特定の地域または分野に関する特に高度な分析)	2008
平成26年 12月10日 第2次安倍内閣	「特定秘密の保護に関する法律」の施行 (内閣情報調査室が特定秘密の保護に関する企画及び立案並びに総合調整事務を所掌)	2014
平成27年 12月8日 第3次安倍内閣	国際テロ情報集約室を設置 (国際テロ情報の集約、国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整)	2015

人脈作りのプロフェッショナルであり、次世代からの信頼も厚い国内部門のスペシャリスト。●平成元年採用(男性)



私は、平成元年に当室に採用されました。平成の時代が間もなく終わろうとしています。私の平成を振り返ることで、内調ライフの一端をご紹介します。

新人の頃は、基礎資料の作成や資料運びの業務で朝から駆け回っていました。届け先は官邸。国の中心で働いていることを肌で感じられました。30~40代は、情報収集の最前線。多くの人と会い、人脈を築くことにやりがいを感じました。一方で、必要とされる情報を入手できているのか、日々自問自答し

ながら駆け抜けたとも言えます。50代になった現在、管理職として、最前線から上がってきた情報の取りまとめを行う立場となりました。

情報収集の作業はたやすいものではありません。上司からの指示を待つよりも、能動的に動くことが求められます。当室の仕事は、自分で見つけた輝く素材が、最終的に官邸への報告に繋がるという面で実にやりがいがあります。新しい時代に、あなたも「内調」を実感してみませんか？



内閣情報調査室には、様々な情報の専門家及び専門家のたまごがいます。様々なフィールドで新たな課題に挑戦し、内閣情報調査室をリードし続ける6名の職員の声をお届けします。

海外研究機関での勤務や官邸への出向も経験。次世代を牽引する若き国際派エース。●平成22年採用(男性)



成長産業の牽引役。内調を一言で表すなら、私はそう答えます。官邸直属の情報機関である当室は、テロ対策や情報集約の仕組みづくり等、わが国のインテリジェンス全体に係る非連続の成長を牽引しています。

私は民間企業を経て入室後7年で、総務部門、米国シンクタンクへの派遣、官邸への出向を経験し、現在は国際部門で対外関係の連絡調整を行う業務を担当しています。厳しさを増すわが国を取り巻く安全保障環境と、当室が牽引する情報コミュニケーションの変革により、内調には世界の情報機関からの注目が

集まっています。そうした中で、当室の窓口を担えることは格別です。

変化の真っ只中にある当室で活躍する職員は、不確実なものに対してポジティブに反応できる、柔軟性、好奇心、しぶとさ、ある種の楽観性、そして向学心に富む人が多いと感じます。情報の仕事は元来地味で、表立って称賛される類のものではありませんが、変化の震源地である当室には何より、他では得がたい経験とチャンスがあります。静かな闘志と、国の安全に奉仕する愛国心をもった皆さんと働ける日を楽しみにしています。



長くにわたり国内部門での情報収集・分析業務に従事する国内情勢の専門家。●平成7年採用(男性)



現在、私は、情報の分析業務についておりますが、毎週のようにまとめる分析ペーパーについて、どうすれば、「速く」「正確に」「わかりやすく」仕上げられるか思い悩む日々を過ごしております。また、以前は、いわゆる「外回り」と言われる情報の収集業務も経験しましたが、その際も、毎週のように、誰に会って、どのように情報を引き出すかを考えながら動いていました。これらは毎週途切れなく繰り返される日常であり、今週の仕事が終われば当然、次の週の課題が待っています。

毎年の業務説明会や官庁訪問でお会いする学生の皆さんから「今のお仕事のやり甲斐は」「どんな時に達成感があるか」と問われた際、人前で誇れる具体的な実績やエピソードの類がない私は困ってしまいますが、それでも、官邸への情報貢献の一端を担えているのかもしれないあとを思いながら、絶え間なく情報を扱う仕事を熟し続けること自体には、それなりの充実感があります。情報にご関心のある方は是非、当室を覗いてみてください。



入室当初から目まぐるしく変化する内調を前に百戦錬磨。ひたむきな姿勢で挑戦を続ける若手筆頭。●平成23年採用(男性)



自分は一体どれくらい成長できたのだろう。そう思いながら、今、この原稿を書いています。

入庁して早7年。上司の方々に様々なチャンスを与えていただき、これまで本当に様々な業務に携わることができました。法律の企画立案、国会対応、新たな組織の立ち上げ作業等々、その全てが、今の自分の支えになっています。

とはいえ、未知の分野はまだまだあり、初めて対峙するとき不安を感じないわけではありません。ただ、それ以上に、「自分が知らないことを知りたい」という好奇心と、「乗り越えたと

きに自分はどのくらい成長できるだろう」という楽しみが勝っています。こうした気持ちを日々感じさせてくれる職場で働けていることは、本当に幸せなことだと思っています。

所帯の小さな内調は、その職員1人1人が担う役割が大きいのです。時にそれが重圧となることもあるでしょう。ただ、大変でない仕事は「仕事」ではなく、ただの「作業」です。あえて茨の道に進み、試行錯誤し、最後までやり通す。それができるのが、他の省庁にはない内調の強みです。そんな生き方をしたい人と一緒に働きたい。そう願っています。



国際部門での勤務の他、在外公館勤務も経験。熱い志を持つ地域分析のプロフェッショナル。●平成9年採用(男性)



私は現在、国際部門において地域情勢の分析にたずさわっています。情報の収集・分析というものは、政府が政策を立案する前提条件として不可欠なものであり、自分が行っている分析が我が国の方針を決める礎になっているというのは大変誇らしいことです。と同時に、誤った分析が国の行く末を危うくさせかねない、という危機感が、入室して20年以上経った今でも私が仕事に向き合う上で最大のモチベーションになっているといえるかもしれません。

ところで皆さんは分析の仕事というと、どのような知識や資質が必要だと思いますか？ もちろん、政治や経済、歴史、統計学等といった知識は必要かもしれません。しかし私が中で

も重要だと思うのは、人間というものに対する興味、「共感力」だと思うのです。世の社会現象というもの、つきつめれば全て人間が起こすものです。したがって社会現象を分析し、将来何が起こるかを予測するには、人間というものに対する理解が欠かせません。何も難しく考える必要はありません。「人間とは何か」という問いに対する答えは小説や映画、漫画やゲーム、街中での人間観察等、あらゆるところに転がっています。大事なことは、人間に対する興味を持ち続けること、他人の内面を推し量る感性を持つこと。それができる方は是非、来ていただきたいと思います。何よりそういう方がたくさんいる職場は面白いと思いますね。



国内部門での勤務後、現在は内調の企画調整業務を担当。多様な課題に対して若手の発想を駆使して実行力を発揮している。●平成26年採用(男性)



我が国の未来を担う学生の皆さんこんにちは。

現在、私は総務部門において、国会答弁作成等の国会対応業務、各部門をまたぐ複雑な案件、さらには我が国の情報組織をより強化していくために必要な事項を検討・推進するといった、多岐にわたる企画調整業務を担当しています。

無論、国会対応や省庁間調整等は、どこの省庁にもありますが、官邸に近く、少数精鋭かつフラットな組織であるという当室の強みを生かしながら、官邸を情報面で支えつつ、我が国の情報組織の体制整備を推進していくことができるのは、日本広しといえど、内閣官房の「内調」でしかできない仕事ではないでしょうか。皆さんは、今後の人生を考える上で、どのような仕事をし、人生

を送りたいとお考えでしょうか。我が国の就職活動は「就職」というより「就社」ではないかとよく言われます。しかし、これからの現代日本において生き残っていくためには、大企業への入社や、雇用形態が安定した公務員になること自体を目的としては立ちゆかなくなりつつあることもまた事実かと思えます。

こうした現代日本だからこそ、皆さんには、単なる公務員の中の一つの選択肢として「内調職員」を選ぶのではなく、むしろ、「弁護士」、「新聞記者」、「証券アナリスト」のような「確かなスキルを持つ職業人」である「インテリジェンスオフィサー(情報専門家)」になりたい、そういう熱い志を持って、当室の門を叩いていただけることを期待しています。



平成も30年目を迎えた1月某日。ここ数年で職員数が増加し、少々狭くなってしまった会議室に、個性あふれる4名の職員と人事担当が集まりました。

—内調の仕事はますます広がりを見せています。私も内調に入室して3年目。様々なステージで活躍している先輩と常日頃話しながら、「私は内調で何ができるんだろう」とわくわくと不安に挟まれる日々です。

Dさん 優等生的発言を狙うわけではないけれど、総務部門、国内部門、国際部門での全ての経験が現在の情報収集活動に生かされているよ。国内政治を扱う際には総務部門での国会対応経験が役に立ったし、国際情勢を扱う際には国内部門で培った人脈を活用して国際社会の第一線で働く専門家から情報を得ることができた。

Cさん 内調は、組織のコンパクトさゆえに幹部との距離が非常に近いし、その結果、若いうちから大きな仕事を手がけ、活躍するチャンスに恵まれているよね。特に国の組織としては珍しいんじゃないかな。

Aさん さらに、コンパクトな割に研修や在外勤務等の機会がそれなりに確保されているから、一人当たりには与えられるチャンスはむしろ他省庁より多い気がする。かと言って、自動的にその機会が与えられるわけでもなく、希望しない限りはほぼ機会を巡ってこないのも現実です。

Bさん 業務の成果・結果も個々の職員の能力や個性によるところが大きいと思います。良くも悪くも個人プレイヤーが多い組織だと感じますね。

Dさん 自ら問題意識を持って、情報源(専門家)を新規開拓し、人間関係を構築し、適切なタイミングで有意な情報を得ることは、情報に携わる者にとっての醍醐味。価値ある情報を得るだけでなく、魅力的な人との出会いもあるので、単なる事務仕事では感じることもないやりがいは、どの部門に所属しても感じることができるね。

—これは面白かった! という仕事はありますか?

Dさん 国際部門で海外出張に毎年行く機会に恵まれたことかな。内調に入る前から、仕事で海外に行けるかもと期待していたので。日本と大きく異なる地域(イスラム諸



国)を訪れることで知見を広めることができたし、日本人や日本企業が現地と良好な関係を築いている光景を見た時、日本に対する理解不足に気づき、諸外国だけでなく日本(人)についても改めて知りたいと考えるようになった。

Cさん 私がチャレンジした在外公館での勤務は全てが新鮮で日々新しい知識を吸収し、自分が目に見えて成長できていると実感できました。D先輩と同じく、海外に出ることで日本を客観的に見ることができ、その良さや問題点を肌感覚で認識できたのも貴重な経験です。在外公館では時に自分の発言が個人のものではなく日本の発言と捉えられることもあり、責任が重い反面、大きなやり甲斐を感じました。

Bさん 私の場合は、国内部門での業務。情報の収集から見せ方まで工夫のポイントの多い仕事で、関連する本を読み、報道をチェックするなど勉強し甲斐があったし、それと共に、自分の仕事の結果が時の政権の判断にダイレクトにつながっていた。その時は無我夢中。今になってその仕事の重要性をじわじわと実感しています。

Aさん 僕にとっては社会人2年目に日本版NSCの創設に直接携われたことが分岐点だったな。外務省、防衛省、警察庁から10数人の職員が集められる中、自分も内調からただ1人派遣されたのですが、官邸での会議に出席したり、内閣法制局と一対一でやり取りをしたりと、他省庁の2年目職員では味わえない刺激的な毎日を通り越せたと思う。法案審議で連日朝帰りやった日々は大変だったけど、準備室員としてともに乗り越えた他省庁の仲間とは、今でも定期的



Aさん

平成24年採用
2年目で他部局へ出向した後、国内部門へ。関西出身、国内部門の若手ホープ。



Bさん

平成22年採用
総務部門から集約センターを経て国内部門へ。現在は内閣府へ出向中のお姉さん職員。



Cさん

平成10年採用
2度の出向と2度の在外勤務という豊富な経験を生かし、国際部門でアジアに関する情報分析を担当する中堅職員。



Dさん

平成7年採用
国際部門から国内部門へ。現在は有識者の提言の取りまとめを主業務とするベテラン職員。



インタビュー構成

平成27年採用
へっぽこ人事担当。先輩に誘われ、つい夜更かしがち。

に飲んでるよ。

Dさん みんな色とりどりの仕事をしているね。情報機関という組織の性格上、一般的な行政官庁と異なり、扱う事案が多岐にわたっているから、色々な世界をのぞくことができる。例えば、EUをめぐる諸問題を扱った翌週に、2020年東京五輪に関する事象を追っていたりするよ。

—説明会で会う学生さんに「どのような人が内調の仕事に向いていますか?」と聞かれることがよくあります。私自身、内調の仕事に向いているのか、3年目になっても「これ」というものを掴めずにいます(笑)。

Bさん 私は『サザエさん』の磯野カツオみたいな人がいいと思う。勉強嫌いなところ、多少ツメが甘いところは脇に置くとして、人に愛される才能と頭の回転の速さ、物事への嗅覚が群を抜いているし、そのような人が内調で活躍しているように思うよ。

Aさん 確かに「情報」の世界って際限がないから、いい意味で「飽きっぽい人」が向いてるかもね。

Dさん そうだね。内調はいわゆる「なんでも屋」。日本の内外情勢に広く関心を寄せている人に相応しいと思う。特に、これから社会に出ていく学生の皆さんの中には「自分はこの仕事に関わりたい」と決断できずに悩んでいる人も多いのでは? そういう人にとっては、内調は向いているのかもしれないね。内調は入ってから悩めるし、悩まずにはられない職場とも言える。

—悩まずにはられない、確かにそうかもしれませんが、そんな内調に興味を持っている学生に向けて伝えたいことはありますか?



Cさん 就職して間もない頃は「本当に自分に役立つのか」と思う仕事をすることもあるだろうけど、様々な経験を経て知識を習得した結果、その意義を理解できるようになる事が往々にしてあります。どんな仕事でも無駄にはならないと思うよ!

Dさん 本当に、内調に入る若者には、仕事において食わず嫌いの姿勢だけは避けて欲しい。何年か仕事をしていると誰でも気づくことだけど、「自分に向いている仕事」というものは本人が気づいていない場合も少なくないからね。人によっては、仕事に関する好みが変わることもある。

Bさん そうそう。内調ではいろんな人が悩んだり、笑ったりしながら仕事をしています。内調の仕事の多くは地道なものです。それが新しい可能性に気づきかけにつながっている。新人職員の皆さんには、まずは選り好みせず、真摯に仕事をするを大切にしてほしいです。

Aさん 僕は人間関係だけは大切にせよと伝えたいな。同期との関係はもちろん、仕事で関わる人と良い関係が構築できれば、仕事でも良い結果に繋がると思うし、何より築いた人脈は自分の財産になるしな。その過程で悩み事なんかがあったら、メンターに付いてくれる先輩職員に何でも相談したらいいいよね。

—最後にメッセージをお願いします。

Dさん 若い人は、何にでも挑戦できるパワーや時間を持っているからこそ、若いのだと思います。何かをやらないう後悔するよりも、やってみて後悔する方が若者らしいのでは? (もちろん後悔しない方が良いでしょう)。パンフレットを読むだけで内調を訪れずに、将来のどこかの時点で半生を振り返った際に「あの時、内調のドアを叩いていれば」と、もう一つあったかもしれない人生に思いを馳せることがないよう、就職活動に取り組んでください!

—ありがとうございました。

内閣情報調査室の職員は実際にどのような働き方をしているのでしょうか。国内部門、国際部門、総務部門の3名の職員の一曰に密着しました。



平成10年採用 男性

7 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 23

国内部門で情報収集・分析業務を担当するスペシャリスト。

毎朝の日課

朝食を摂りながら、テレビのニュースやワイドショーを観るのが日課。特にワイドショーは、普段、自分の仕事と関わりの薄い出来事も知ることができるため、かなり真面目に観ています(笑)。

経験上、世間の関心事は何か? を常に念頭に置いておくと、大事な場面での間違いが少なくなります。

出勤後、ランチまでは室内にて、資料作成に専念することが多いです。

地方関係者とのランチ

昼以降は、ほぼ外出して人と会っています。今日も、地方から上京してきた知人とのランチでした。東京にいる時に知り合った方で、かれこれ10年ほどの付き合いになります。

普段から電話で話しているものの、直に会うのは一年ぶり。「あれっ? 太ったんじゃないの?」なんて、お互い軽口を叩きながら、地方の現状など、真面目な意見交換もします。

資料作成

次の訪問先へ向かうところで、上司から「作ってほしい資料がある」との電話を受け、急ぎ帰宅しました。

資料作成の指示に限らず、調査案件があった際もこのように電話で指示がおりる時があります。

今日、指示された資料は、普段から用意をしていたものでしたので、更新するだけで済みました。外出が多い分、時間のある時に各種資料の基礎を作っておきます。

初対面

「あなたに紹介したい事情通の関係者がいる」と、知人から言われたのが一昨日の夜。業界的には有名な方です。即快諾しました。紹介者の知人と一緒に、事務所を訪問します。

初対面は緊張する場面ですが、私はできるだけその空間を楽しむようにしています。45分の約束が、会話が盛り上がり、1時間半も滞在してしまいました。

さまざまな関係者との忘年会

今夜は様々な分野のプロフェッショナルが一同に会する忘年会に出席しました。今年がどのような一年だったのか、そして来年には何が起きそうなのか、誰と話をしても話題は尽きません。

一年間の労をねぎらいつつ、気持ちは新たな年へ向かっています。

平成15年採用 男性

9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 22

国際部門での特定地域の情報分析の他、在外公館勤務も経験。現在は各国関係者との連絡調整を行う国際派職員。

大使館関係者からの連絡、朝の予定確認

朝の出勤直後から在京の大使館関係者からの電話が鳴る。「Hi, Good morning!」と軽い挨拶だが、内容は軽くないようだ。

相手方の幹部が、自分の上司と急ぎ面会がしたいとのこと。言葉の端々からひしひしと切迫感が伝わる。上司に相談し午後一番の面会が決定。また、朝は所属班員同士で予定を確認。急に業務が重複した班員がいるため、通訳の白羽の矢が同僚に立つ。

なお、業務連絡、会議など対外業務の共通言語は英語である。

地域情勢に関する協議

地域情勢に関する外国の専門家との協議の時間となった。オフィスに相手を迎えると、長時間のフライト直後ではあるが、表情や声で活気がみなぎっていることが分かる。やはり、担当分野に精通する当室専門家との議論への期待が長旅の疲れを吹き飛ばしているのだろう。議論は白熱し、我が国の安全につながる重要な情報が多く得られた。仕事のやりがいを感じる瞬間でもある。

大使館関係者との協議

昼休みの時間になったが、午後一番に面会のため、相手との連絡の合間をぬいしつつ食事。庁舎内のコンビニはこうしたときに大変助かる。

面会に際しては、短時間で最大限の効果をおげるため入念な準備が欠かせない。全てをセットしたのは、協議直前。相手方もギリギリまで本国との調整を行っていたようだ。

協議の結果、今後も緊密に連絡を取り合っていくこととなった。

国際会議の会場下見、文書に関する定期検査の準備

協議後、外出し国際会議の会場を下見。先方の求めるニーズに合致した会場だ。会議当日は、会議場関係者との打ち合わせ、内外参加者への会議場の関連規則の周知徹底が必要だが、下見を通じ現場での実施事項が明確化した。

職場に戻り、文書管理の定期検査に向けた確認を実施。特定秘密保護法などの関連法令、各種の文書取扱要項の遵守は、情報保全の観点からも重要である。

外国政府幹部との会合、出張準備

夕刻、外国政府幹部と上司との会合に随行。今後の協力関係を前進させる絶好の機会である。準備万端と思っても、当日まで何があるかは分からない。今回は一層の協力関係の深化で双方が一致、非常にうまくいった。終了後、今度は間近に迫る外国出張について出張先から至急の問い合わせ。時差の関係で現地が動くのは日本時間の夕刻からとなる。早速職場に戻り対応。今日も多忙だが充実した一日となった。

平成17年採用 女性

8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

内閣情報分析官室や国際部門での勤務を経て、現在は有識者との情報交換を担当。育児との両立もこなす女性職員。

登庁、報道チェック

育児との両立のため、勤務時間変更制度を利用し、通常より前倒しで勤務開始です。登庁後はまず、通勤途中で斜め読みしたニュースのうち掘り下げて知りたい事項を調べるほか、新聞等でその日の報道や論調をチェックします。学識経験者等からの意見聴取等を担当しており、テーマの決定や聴取結果の取りまとめを行う必要があるため、国内外の情勢を幅広くフォローし、ポイントや動きを押さえておく必要があります。

次回面会時の議題設定など

面会の際の議題について、いくつかの案を作成して上司と相談し、関係者と電話やメールで協議します。日々目まぐるしく変化する国内外の情勢への対応は難しいこともありますが、公開情報をもとに重要なイベントや事案を把握し、時機に応じた議題や、中長期的な視点で重要と思われる議題の設定を心がけています。(官邸の関心事を踏まえた)情報官などの指示でテーマが決まることもあります。

学識経験者との面会

学識経験者から専門事項に関する見解を聴取し、その後、質疑応答、意見交換を行います。各分野の第一線で活躍する学識経験者等からの洞察に富んだ見解や提言、意見交換は毎回刺激的です。

多岐にわたる分野の事象や問題の本質を正しく理解するために日々の勉強が欠かせませんが、仕事を通じて自分の「引き出し」が増え、様々な分野の複雑な事象への理解が深まることは非常に貴重な経験だと思っています。

報告書の作成など

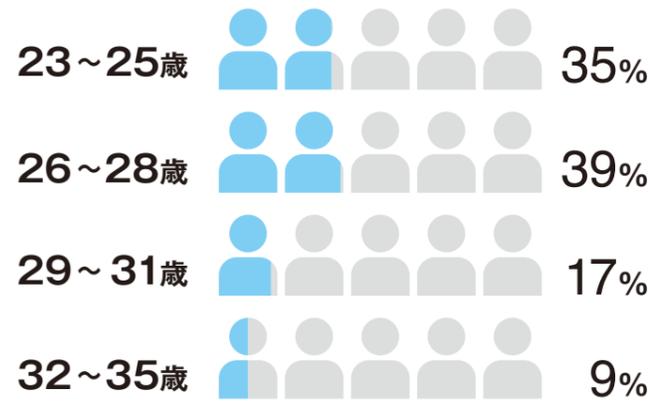
帰庁後、急ぎ報告すべき事項があれば上司に簡潔に報告し、その後数日かけて事実関係などを確認し、読み手が理解しやすいよう説明を補いながら結果の取りまとめを行います。官邸報告に活用されると考えると気は抜けません。

同僚より一足早い退庁ですが、情報の保全上、幸か不幸か仕事をもち帰ることはできないので、限られた時間の中でいかに効率よく仕事を進めるかが課題です。育児休業からの復職後は計画的に進めやすい業務を担当させてもらっており、仕事には集中し、帰宅後は子供とじっくり向き合うことができている。

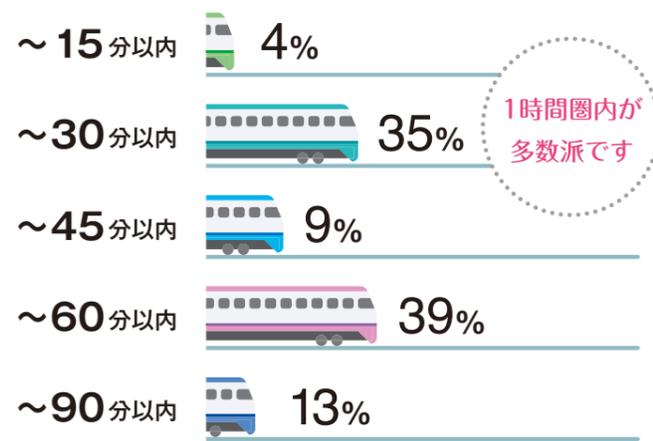
現在は十分な勉強の時間を取れないことに不安も覚えることもありますが、日本の社会も国際社会も構成しているのは「人」。大きさですが、自分の欲求に素直に生きる様々な人々との関わりを通じて国内外の様々な問題や複雑な事象への理解を多少なりとも深め、冷静に分析できる目を持つようになれば、と考えたり、考える余裕はなかつたりしながら(笑)一日を終えます。

内閣情報調査室では、多くの若手職員が第一線で活躍しています。
多士済々な若手職員23名の声から、内調で働くあなたのイメージを膨らませてください。

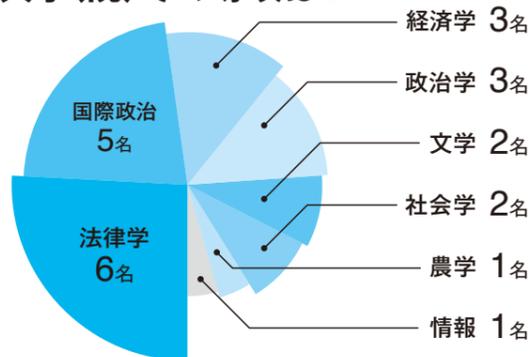
Q 若手職員の年齢構成は？



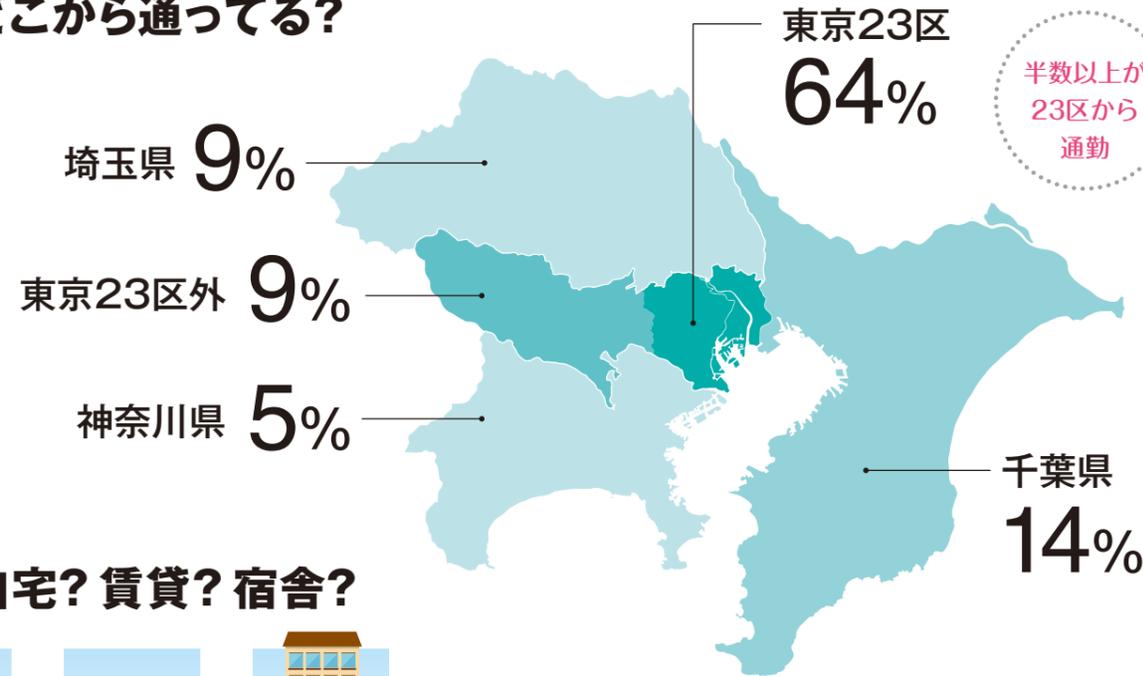
Q 通勤時間はどれくらい？



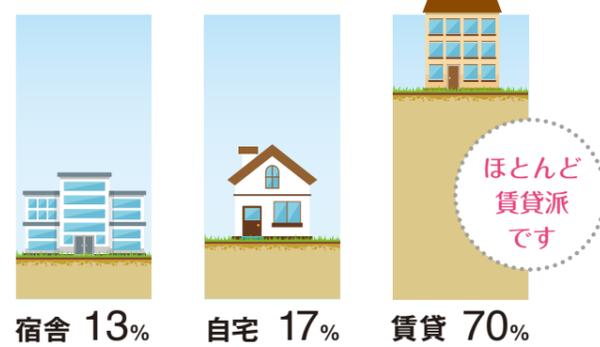
Q 大学(院)での専攻は？



Q どこから通ってる？



Q 自宅？賃貸？宿舎？



Q 退庁時間は？

通常期 平均 19:34
繁忙期 平均 22:44

Q 睡眠時間は？

平均 5.95時間/日

Q 有休取得数は？

平均10.36日/年

★休日の過ごし方

ゴルフ、フットサル、スノボ、水泳、野球、ジム、トレーニング、皇居ラン、家事・育児、洗濯、料理、読書、映画鑑賞、撮りためたドラマを観る、買い物、温泉・銭湯巡り、ドライブ、喫茶店巡り、散歩・ランチ開拓、飲み会、おしゃべり、習い事(ピアノ、英会話)、睡眠、旅行、キャンプ、ゲーム、ペットと過ごす

Q 内調に入ろうと思ったきっかけ

専門性 インテリジェンスに生涯関われることに魅力を感じた。／自分が学んできたことを生かせる、物事を突き詰めて考えることが向いていると思った。／普通の公務員と違い、スペシャリストを目指す点に惹かれた。

業務の独自性 他省庁にはない幅広い業務に関わることができ、情報収集の対象も際限がない。／他省庁と毛色が違う仕事内容が面白く、飽きることがない。

ダイナミックな仕事 政治の中核との距離の近さに魅力を感じた。／日本を取り巻く日々刻々と変動する社会情勢をダイレクトに感じながら仕事ができる。／平時・有事問わず、すべての段階で国家の意思決定に貢献できる。

職員の雰囲気 面接で出会った先輩方の人柄、雰囲気がよかった。／人事担当者から猛アプローチを受け、必要とされていると感じた。／他省庁と比べて面接の回数が圧倒的に多くじっくり人柄を見てもらえたため、ここなら入ってから一人一人を見てくれると思った。／活気のいい真っ直ぐな先輩ばかりで、いい意味で「公務員らしくない」姿に惚れた。／一緒に働きたいと思える職員を見つけた。

その他 直感。／転職がない。

Q 仕事をする上で大切にしていること

謙虚さ・誠実さ 自分にできることを誠実にやる。／何事にも寛容であること。／感謝。／探究心。／謙虚さ。／自分を律すること。

感情のコントロール 忙しい時こそカッコとしない。／焦らない、イライラしない。／たとえ機嫌が悪くても、誰にでも平等に接する(当たり前だけど意外とできない人もいる)。

思考力・察知力 自分の考えを持つこと。／筋道立て、過去の経緯や背景を調査した上で考える。／相手の立場に立って考える。／常に周囲の人間を意識し、周囲で何が起きているか、周囲が何を求めているのかに、アンテナを張っておくこと。／分からないことは(自分で調べてから)分かる人に聞くこと。／「なぜ」を考えること。／大局観を持つこと。

やる気・突破力 やると決めたらやる。／仕事は取りに行く。／努力したからといって必ず成功するとは限らないが、成功した者は必ず努力していると言いつける。／変えるべきことは変える。

バランス感覚 こまめに休みを取り、一人になれる時間を作る。／だから仕事をしない。／公私の線引きとスケジュール感を常に意識する。

Q 学生時代に力を入れたこと

定番 論文執筆、語学勉強、サークル・部活、ゼミ・研究、留学、アルバイト、ゲーム、議員インターン

その他 様々な本を読み、映画を観て、様々な人と交流し、「出会い損ね」がないようにした。／世代問わず、ジャンル問わず、様々な仕事、勉強をしている人と会った。／ベンチャーの旅行系メディアで記事ライターをした。／出版社のアルバイトでファッションスナップをした。／スキューバダイビングのライセンスをとった。／バックパッカーをした。

➡ 興味のあることにはとやみかたに飛び込む実行力を発揮している人が多い？!

Q 内調をズバリ一言で言うと？

「可能性は無制限」…これからは官邸のニーズや情勢の変化によって、新たな分野が所掌に加わる可能性が高く、そういう意味では今後も飽きることのない職場だと言える。

「未知との遭遇」…かなり古いハリウッド映画のタイトル(邦題)のようで恐縮だが、好奇心旺盛な人には飽きない職場ではないだろうか。

「スポーツで言うところの団体戦」…バレーやサッカーのような「団体競技」ではないことがポイントで、個人の結果の和=団体の結果、になるところが内調らしい。

「不易流行」…本質的なものを忘れず、本質的な部分にもさらに新しいモノを取り入れていく組織であると思う。



職員のキャリアステップと出向・研修制度

内閣情報調査室は一般的な「行政」とは異なる「情報(インテリジェンス)」という分野を主力としています。職員は国の中枢を支える「情報(インテリジェンス)」の専門家を目指し、日頃の情報業務に加え、他省庁への出向や研修、在外公館勤務に積極的に取り組んでいます。



国の重要課題はその時々政治、経済、社会情勢によってどのようにでも変化するため、内閣情報調査室では、それらを察知する感覚(センス)や柔軟性、向上心が求められます。

■ 他省庁への出向

専門性を強化し、行政実務経験を積むため、内閣情報調査室職員には、情報コミュニティ省庁(警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省)や内閣府等への出向の機会を付与しています。また、内閣情報調査室に属する内閣衛星情報センターで衛星画像分析業務にチャレンジできる機会も得ることができます。

情報コミュニティ省庁・内閣府への出向

内閣衛星情報センターでの衛星画像の分析業務

■ 在外公館勤務

在外公館勤務は国外で多様な人々と触れあう貴重な機会であり、当室職員のキャリアを形成していく上で非常に有益であるため、職員を積極的に派遣しています。

外務省を経由した各国大使館での勤務

■ スキルアップ支援制度

スペシャリストを目指す上では、「専門性」の強化が欠かせません。内閣情報調査室では、語学力向上のための支援や、人事院の研修制度(行政官国内研究員、行政官短期在外研究員等)を活用して、「専門性」に磨きかける機会を設け、職員がスキルアップできる環境を整えています。

語学学校への通学補助

国内の大学院における調査研究(行政官国内研究員)

外国の研究機関における調査研究(行政官短期在外研究員等)

OJT



コラム

総務部門、国際部門を経て、現在は外務省に出向中の職員。

●平成23年採用(男性)

国家公務員には様々な仕事がありますが、その中でも内調の仕事は特にイメージづらい仕事だと思います。私が官庁訪問した時もこれは同様で、期待と共に若干の不安も抱えていたことを覚えています。それでも、内調への志望を固めることができたのは、先輩職員が「情報という仕事は知的好奇心を満たし続けることができる。これほど面白い仕事はない」と語ってくれたことでした。

もちろん、業務は面白いことばかりではありませんが、公開情報の地味な積み重ねがいざという時に役に立ったときや、付き合いのある有識者から有力な情報源に繋がったときなどは、情報を仕事にする独特のやりがいを感じることができました。また、情報の仕事は魅力的だけど、やりたい仕事ができるかわからないという不安もあると思いま

す。私も直接情報にはかわからない会計業務を担当しましたが、予算を通じて普段接することがない部署や他省庁と仕事をして、情報業務を少し離れて客観的に見ることは、将来的に生きてくる貴重な機会だったと思っています。現在、外務省に出向して首脳級の大型会議の調整やODAによる開発支援など全く馴染みのなかった業務を担当していますが、ここでも、今まで得てきた情報業務の経験と会計の知識は役に立っており、どんな仕事でも目の前のことをしっかりと取り組んでいけば、決して無駄にならないということを実感しています。

情報の仕事は、知的好奇心がある限り常に魅力的な仕事です。少しでも興味があれば、是非とも当室にお越しいただければと思います。



国の総合戦略機能を担う内閣官房は、原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室はその中で**唯一独自の定期的採用**を行っています。

Q 採用はどのように決定しているの？

A 内調職員との面接を重ね、受験者の人柄、企画力、コミュニケーション能力、将来性等を総合的に評価します。当室の業務内容は多岐にわたるため、必要とされる人物像も多様です。

Q これまでの採用実績は？

A 毎年概ね数名を採用しています。公務員削減傾向にある中、業務の重要性から、順調に採用を継続しており、本年度も国家公務員一般職(大卒程度)からの採用を予定しています。

本室()内は女性

試験年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予定)
行政区分	4人(2人)	3人(1人)	3人(2人)	3人(2人)	2人
技術系区分			1人(0人)	2人(1人)	1人

※本室の技術系区分については「電気・電子・情報」「機械」「物理」からの採用を予定。

内閣衛星情報センター()内は女性

試験年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予定)
行政区分	1人(1人)	1人(0人)	2人(1人)	3人(2人)	10人
技術系区分	2人(1人)	3人(0人)	2人(0人)	4人(1人)	

※内閣衛星情報センターの技術系区分については全区分からの採用を予定。

○初任給(平成30年度現在)

一般職(大卒程度試験)合格の場合 行政職(一)1級25号俸
222,240円(地域手当、本府省業務調整手当含む)
※大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

○賞与(ボーナス)

期末手当、勤勉手当として、年間4.3月分
(6月:2.075月分、12月:2.225月分)

○諸手当

扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等

○勤務時間

原則 9:30~18:15

○休日

年次有給休暇20日間(4月採用者は、その年の12月まで15日間)
特別休暇(夏季、結婚、忌引等)
※仕事と育児・介護の両立を支援する制度があります。

○福利厚生

共済組合制度(医療費の給付、診療所、契約施設(保養所等)の補助)、グループ保険制度(団体保険、団体積立)、診療所(内科、歯科)、直営病院(虎の門病院等)での診察、定期健康診断、人間ドック

このほか、内調職員同士の親睦を深めるためのサークル(野球、フットサル、テニス、ボウリング、プロ野球観戦、ハイキング、町中散策等)がそれぞれ活発に活動しています!

コラム

内 閣情報調査室では、首相官邸や国会といったいわば「日本の中心」から、情報収集の最前線の「在外公館」、さらには「宇宙」まで、バラエティに富んだ舞台で日本という国が動いているのを感じながら仕事ができます。故に、求められる能力も多様です。

例えば、新聞、テレビ、雑誌、専門誌、インターネット等の様々なメディアからの公開情報を丹念に調べる作業を行うためには、問題の本質を把握する力、冷静な分析力、歴史的経緯を踏まえた深い知見等が必要になりますし、専門家と文字になっていない事実や情報をやりとりしたり、それらについて意見交換したりするためには、相手から信頼され、豊かな

人間関係を構築する能力が必要になります。さらに、変化する国内外情勢に応じて、組織が有するプロダクトを有効に活用し、情報業務を効果的に推進するためには、組織マネジメント能力も求められます。ただし、これらの能力は一朝一夕に身につくものではなく、日頃の業務経験を通じて、徐々に伸張させていく、そうした成長プロセスを楽しめることも必要な能力のひとつです。

どのようなことにも興味を持ち、「変化」と「ニーズ」に柔軟に対応できるチャレンジ精神溢れる方と仕事をしたい、内閣情報調査室職員はそう願っています。

4月 6日 ~18日	国家公務員採用一般職試験(大卒程度)受付期間
6月 17日	第一次試験日
7月 11日	国家公務員採用一般職試験(大卒程度)一次試験合格発表
7月 18日 ~8月3日	第二次試験(人物試験)日
8月 6日 午後2時~	官庁訪問受付開始
8月 21日	最終合格発表日
8月 22日	官庁訪問開始
10月 1日 午前9時~	採用内定



2018年2月 人事院主催 女性のための公務研究セミナー

採用担当者より **熱** メッセージ

各地の業務説明会の場で学生の皆さんによく話すのですが、内閣情報調査室のメイン業務である情報の収集・分析という作業は、物事の背景や本質を探ることであり、こうした業務で養われる物事を見る目というのは、学生の皆さんが、今後一社会人として、結婚や転職、転居等、人生のさまざまな場面で選択をする際、良い判断することに役立つものではないかと思っています。そして、このような物事を見る目を養える職場はどこにでもあるようで、実は少ないとも考えています。

やや、大げさな話になりましたが、今、このパンフレットを手にとられた方の中には、どの省庁を選んだら良いか迷っている方も多くいると思います。私は、せっかく同じ公務員として40年間を過ごすなら、毎日同じような業務をこなすだけの職場ではなく、日々多くの発見と出会いがあり、仕事を通じて一社会

人として人生を生き抜く能力を培うことのできる「情報(インテリジェンス)」という当室の業務に是非興味を持ってほしいと思っています。

皆さんは「情報」というと少し難しく感じるかもしれませんが、決してそうではありません。是非当室の業務説明会に参加していただき、当室職員との語りの中で、その魅力について知っていただけたらと思います。

このパンフレットが、皆さんが当室のドアをノックするきっかけになることを祈りつつ、当室との出会いが貴方の人生の可能性を広げる大きなチャンスとなることを期待しています。



✓ 内閣情報調査室では、随時、独自説明会を開催しています。

説明会の詳細については、内調採用ホームページの更新をチェックしてください。

http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html (内閣官房ホームページ → 採用情報)

✓ 質問は下記の連絡先にお問い合わせください。

■ 内閣情報調査室 採用専用TEL **03(5253)2107**
採用専用mail **ciro-saiyou@cas.go.jp**

■ 内閣衛星情報センター 採用専用TEL **03(3267)9564**





最寄り駅 東京メトロ「国会議事堂前駅」3番出口

〒100-8968 東京都千代田区永田町1-6-1 内閣府庁舎6階

TEL 03(5253)2107(採用専用)

TEL 03(3581)5083(直通)

